

■人生を楽しく生きる為の死生観：要点資料

より今を大切に生きるために

■ 1 ■ 本日のゴール：イントロダクション

人間の本質を知ること、より今を大切に自分らしく、楽しく生きて行くことができます。そのために、今回は死生観について触れます。

- 死は、何の為にあるのか？ …この世の世界の視点で
- 死んだ後、どうなる！ …あの世の世界を量子論の視点で、あの世から見たこの世の意味？ …ヒント
- 有識者3人のこの世とあの世(仮説・主観)から

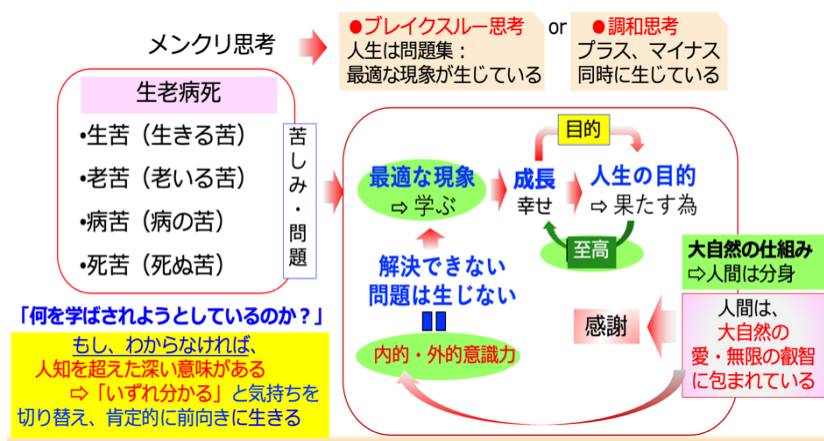
■ 2 ■ 死は、何の為にあるのか？ …この世の世界の視点から

1. ブッタの教え、死は「苦」

「仏教の基本方針」が 四諦八正道
→ 苦諦：生きることは苦 = 四苦八苦
四苦 = 生老病死

2. 人生は苦か？！

人間は、大自然の愛・無限の叡智に包まれている。
人生の目的を果たすために、進化・成長し、喜び、幸せを感じる存在。

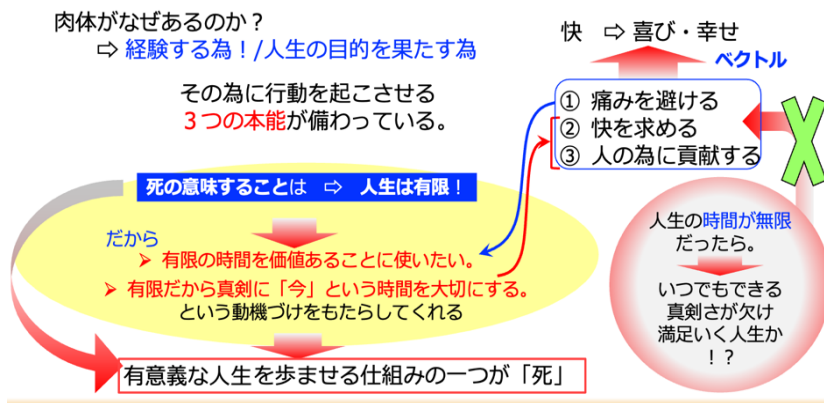


3. 死は、何の為にあるのか？

有意義な人生を歩ませる

仕組みの一つが「死」

その為に、3つの本能がその方向に働く。



4. 有意義な人生

その為に、人生の二つの支配原則

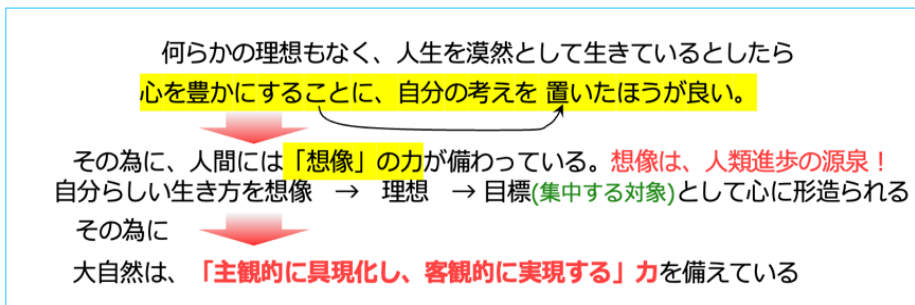
① あなたの心のあり方が、自分の運命・健康・人生を支配する ⇒ 人生の万事を良くも、悪くもする。

② 自分らしく(人生の目的)生きる

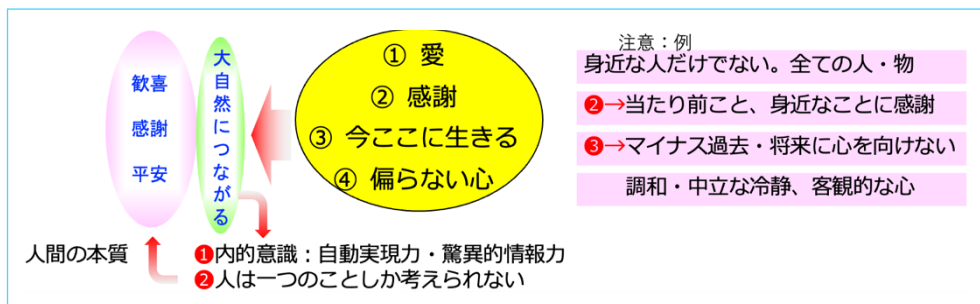
この支配原則から、心の持ち方を積極的、肯定的にすれば、人間として本当に生き甲斐ある人生を過ごせる

その為の重要な二つの要件

① 自分らしく生きる
目標を持ち、行動する



② 中今の状態を保つ・切り替える



「君たちが持つ時間は限られている。」
 人の人生に自分の時間を費やすことはない。
 誰かが、考えた結果に従って生きる必要もない。
 自分の内なる声が雑音に打ち消されないこと。
 そして、
**最も重要なことは自分自身の心と直感に素直に従い、
 勇気を持って行動すること。**
 心や直感というのは、
 「君たちが本当に望んでいる姿」を知っている。
 だから、それ以外のことは、全て二の次でも構わない」

限られた人生の時間

直感を信じ自分らしく生きる

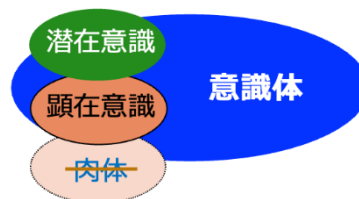
IT業界のカリスマ、アップルコンピュータの創始者、
 故スティーブ・ジョブズがスタンフォード大学2005年の卒業式でスピーチ

■ 3 ■ 死とは＜量子論からの考察＞

1. 人間の本質は？ 分子生物学者:ルドルフ・ジェーンハイマー博士

食物を食べると、分解された栄養素は細胞に取り込まれ、その原子が古いものと入れ替わる。

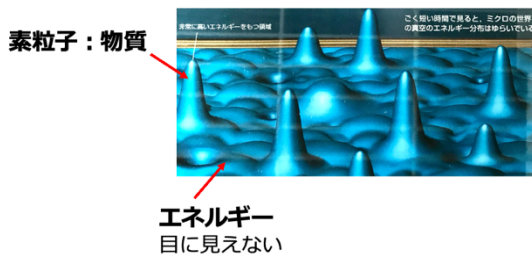
- ⇨ 人間の肉体を構成する原子は、1年もすれば入れ替わる。
- 肉体は入れ物。⇨ 人間は、肉体を超えた存在 ⇨ 意識体



2. 量子論から宇宙の創造と人間の誕生について

真空は、無ではない。エネルギーに満たされている。目に見えないだけ。そのエネルギーに何らかの意思が働くと、エネルギーが増大して、物質＝素粒子ができる。

人は、物体 と エネルギー体 が同居している状態
 = 肉体 = 精神体・魂



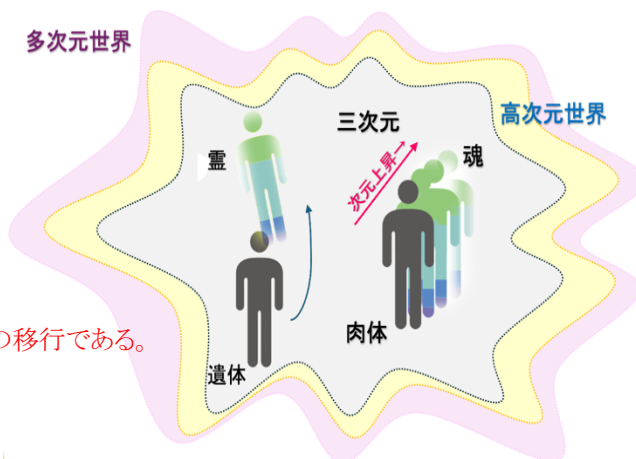
3. 量子論説:素領域理論による多次元世界のモデル

素領域: 分解不可能な最小領域

- 人間は、肉体＜三次元＞＋魂＜高次元＞
- 死は、肉体から魂が抜けた状態。肉体から抜けた魂を霊と呼ぶ。

■ 死は、肉体が減じ、意識体(=霊、エネルギー)だけが、残された状態。
 この場合の意識体は、潜在意識(仮説)。

- 死は単なる存在の終わりではなく、意識の新たな形態への移行である。
- この世の学びは、次のこの世につながる!?



■ 4 ■ 有識者からの死生観 人生の生き方とあの世とは！〈仮説・主観〉

- 科学的に証明されていないことは信じてない
 - あの世なんてない
- } 現在の日本人の一般的な考え
- ・・・と思ひ込むのは無明。視野を広げて建設的に考えて生きよう。

1. 矢作直樹 氏

東京大学名誉教授。元医師。元東大医学部附属病院救急部・集中治療部部长。
2016年退官 現在、執筆・講演活動。

あの世で決めたテーマを学びに、この世に来る。私たちはこの世で役目を終えれば、あの世へ帰る。
あの世が家。 この世が旅先。
では、旅の目的は何か？ この世は、全て魂の成長のためにある。

①どんな亡くなり方でも心配はいらない

- 本来の日本的な死生観(明治維新前)に立てば、この世とあの世は行ったり来たりするところ。
あの世は特別なところではなく、死ねばだれでも戻るところ。

- どんな死に方でも心配いらない

多くの人は事故に合わず、大病もせず、最後は大往生となる老衰を望む。

しかし、大往生することが幸せで、事件や事故に巻き込まれて死ぬのは不幸か？

事故や事件に巻き込まれて亡くなった方の遺族は、その最後の状態を心配する。
この世でもう会えない悲しみや寂しさは理解できる。

しかし、どう亡くなったかにあまり思いを寄せる必要は無い。

なぜなら、肉体を脱いだ魂は、気持ちよくあの世へ行っているから。

②お迎えが来る日まで自分らしく生きる

自分がしたいことをして、楽しく過ごせるように自分で考えて工夫する。
人それぞれ役割が違うので、人の仕事を羨んだり、蔑んだりする必要は無い。

幸せに、生きるとは、本当の自分に一致して生きる(自分らしく)と言うこと。

自分に一致していることをやっているときは無心になれ、今、ここに生きる。だから、何かを我慢したり努力していると言う気持ちはない。無心になって取り組んでいけば、ストレスがない。

今いるメンバー、今ある環境で、できることを無心にする。我慢や努力ではなく、中今の気持ちで取り組むのみ。今この瞬間には後悔も心配もないから

2. 稲葉耶季(やすえ)氏

キリスト教神父の父を持つ。東京大学経済学部卒。裁判官になり、大学教授、その後僧侶。
キリスト教、ヒンズー教、仏教、チベット仏教、宗教の専門家。

①あの世とこの世について

一般的・社会的な意味では悪いことでも、すべては『学び』だから、本質(魂)の成長に役立つ。

この世 あらゆることは「良い経験」であり、人の本質(魂)は一生を過ごすうちに必ず成長する。
道義的におかしいことを何としてもやりたいのは、そこに本質の求める理由があるから。

あの世 あの世の段階は無数。 高い段階はコンパッション(平等で純粋な慈愛)に満ちている。
この世での身分、教養、学歴、財産など、一切関係ない。

すべての人は旅の途中(この世)。向かうところはみな同じコンパッションの世界。
だから、誰かを見下したり、誰かと比較する必要はない。

②この世は、学びと成長の世界＝無駄はない

- ・人生が一度きりで、失敗したら仕切り直しができないのでは、救いようがない。
実際には何度でも仕切り直しができる。
- ・自分の生きた人生はどんな人生でも無駄にはならない。惨憺(さんたん)たる人生は逆に良い教訓になる。つらい人生を生きた人ほど、来世では同じ境遇の人に、心底、同情心を抱ける親切な人になれる。

このように人生でやったことが、どんな形にせよ次の人生に役立つ。

という考えは非常にバランスが取れている。それこそが調和とバランスで成り立つ宇宙法則に叶うものといえる。死をむやみにおそれない、里帰りや環境を移動する、と捉えてみよう。

3. 保江邦夫 氏

理学博士。専門は理論物理学・量子力学・脳科学。ノートルダム清心女子大学名誉教授。
湯川秀樹博士による素領域理論の継承者。陰陽師の末裔。少林寺拳法武道専門学校元講師。
冠光寺流柔術創師

死は、素領域の理論からは、何も無くならない。人間の目には見えないだけのこと。

しかし、死に対する恐怖をぬぐうには！？

死後(あの世)の世界を垣間見てみよう。

それぞれの人生、それぞれの生き方を全うしてこの世を去った魂は、その後、あの世でどのようなフェイズ(段階)を辿るのか？

老衰・病死・不慮の事故による死、いずれにせよあの世に帰還できた魂は、あの世における主に3つのフェイズ(段階)から、こちらの世界をサポートするようだ。

フェイズ1 : この世に生き残った人たち(身内)をあの世の側から見守る守護霊となる。

フェイズ2 : 天使や権現様(神が人を助けるために仮の姿で現れる)として、この世に姿形を持ち現れることで、窮地に陥っている人たち(見知らぬ人々)を助ける。

(2005年にJR西日本の福知山線列車脱線事故で見知らぬおばあさんに助けられた女子高校生の話)

フェイズ3 : 神様(大いなる存在)となって調和に満ちる。

このプロセスをたどりながら、●自分のエゴをより薄くしつつ、●より無私で博愛に満ちた精神へと自動的に成長していく。

番外編 : 林 里恵の母に先祖からのアプローチがあった話。

その他 : 沖縄、石垣島の伝統行事『16日祭』。毎年旧暦正月に、先祖を偲びながらも一緒に祝う。一族同門が墓の前に集い、重箱を広げ、線香・ウチカビ(紙銭)を用意し、三線を奏でて、ピクニック気分でお墓参りをする。

- 関連 Zoom レクチャー&フォロー :
- ・2021/5月 感謝を育て引き寄せ力を高める
 - ・2023/7月 量子論からわかる引き寄せの原理とコツ